

【NEWS RELEASE】

2021年8月31日

各 位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

「SMBCグループ TCFD レポート 2021」の発行について

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（執行役社長グループ CEO：太田 純、以下、当社グループを総称して「SMBCグループ」）は、「SMBCグループ TCFD レポート 2021」（以下、本レポート）を発行します。

SMBCグループは、2017年12月に気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）への賛同を表明して以降、積極的な気候変動対応を実施しております。2019年には、グローバル金融機関として初めて気候変動リスクの財務的影響を試算・開示したほか、2021年には気候変動対策ロードマップ及びアクションプランを策定し、取組を加速させています。

本レポートには、直近1年間のSMBCグループの取組内容を新たに記載しております。追加する開示事項のポイントは以下の通りです。

1. 温室効果ガス排出量ネットゼロへのコミットメント

SMBCグループは、2021年5月に気候変動対策ロードマップ・アクションプランを公表致しましたが、それ以降もネットゼロ目標を掲げるお客さまが増加しており、また金融機関における投融资ポートフォリオ全体の温室効果ガス（Greenhouse gas/GHG）排出量削減に対するお客さまの理解も徐々に進展しつつあるなか、脱炭素社会の実現に向けたより強い姿勢を示し、行動していくことが必要と考えております。

こうしたなかSMBCグループは、「パリ協定の目標に沿って、2050年までに投融资ポートフォリオ全体でのGHG排出量のネットゼロを実現すること」を新たにコミットします。

これにより、自らのGHG排出量に加え、2050年までに投融资ポートフォリオ全体でのGHG排出量についても、ネットゼロの実現をコミットすることになります。

2. ガバナンス体制の高度化

SMBCグループは、2021年4月、取締役会での審議ならびに指名委員会での人選を通じてグループCSu0（Chief Sustainability Officer）を設置しました。また、2021年7月には、取締役会の内部委員会としてサステナビリティ委員会を設置しました。

加えて、役員報酬体系にESGへの取組に対する評価を取り入れている旨の記載を追加しています。

本レポートでは、気候変動ガバナンス体制に関する新たな取組として、監督・執行両面における体制強化、役員報酬制度の高度化について記載しています。

3. 気候変動に係る戦略的取組の整理

SMBC グループは、気候変動に係るリスク・機会を整理したうえで、気候変動に対する強靱性の確保、成長機会の獲得に向けた取組を加速させています。

本レポートでは、気候変動対策に係る SMBC グループの戦略的取組を新たに整理し、それぞれの施策の具体的な内容を記載しています。

4. 気候変動シナリオ分析の高度化

SMBC グループは、グループの中核企業である三井住友銀行において、物理的リスク・移行リスクに関するシナリオ分析を実施しており、想定されるリスク量を算定しています。本年は、物理的リスクにおいては、AI 分析を活用しつつ分析対象地域を国内からグローバルへ拡大し、移行リスクにおいては 1.5°Cシナリオへの見直しを行っています。

本レポートでは、分析プロセス及び算定結果に関して、本年の見直し内容を含めた詳細を記載しています。

5. セクター・事業に対する方針の高度化

SMBC グループは、気候変動に影響を与える可能性が高いセクター・事業に対する方針を策定しています。各方針は、外部環境を踏まえ定期的に見直しが行われ、2021 年 5 月には石炭火力発電向け方針の改定を実施・公表したほか、今回新たにパーム油農園開発・森林伐採向け方針を改定しました。

本レポートでは、石炭火力発電、パーム油農園開発、森林伐採向けの見直し後の方針を記載しています。

6. 投融資ポートフォリオの GHG 排出量算定

SMBC グループは、GHG 排出量の大きい業種における投融資ポートフォリオの GHG 排出量算定を実施しております。2050 年におけるネットゼロ達成に向けて、各セクターにおける GHG 排出量の目標設定、およびその削減が重要となるなか、まずは三井住友銀行における電力、石油・ガスセクターを対象として算定を開始しております。

本レポートでは、そのファーストステップとして、三井住友銀行のコーポレートファイナンス及びプロジェクトファイナンスを対象とした、電力セクターにおける投融資ポートフォリオの炭素強度¹に関する算定プロセスと現時点での試算結果を記載しています。

コーポレートファイナンスを含めたセクター別の算定プロセスおよび結果の開示は邦銀初の取組となります。

SMBC グループは、お客さまをはじめとするステークホルダーとの対話を重ね、共に行動することにより、サステナビリティの実現に積極的に貢献し、開示の拡充に努めてまいります。

(URL) https://www.smfg.co.jp/sustainability/materiality/environment/climate/pdf/tcfreport_j_2021.pdf

¹ 投融資先企業の炭素強度（発電量あたりの温室効果ガス排出量）をポートフォリオにおける三井住友銀行の保有割合に応じて加重平均した値

<SMBC グループ TCFD レポート 2021 における主な更新点>

SMBC グループ TCFD レポート 2020 からの主な更新点	
気候変動に対する考え方	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>ネットゼロへのコミットメント</u> 2030 年に自社、2050 年までに投融资ポートフォリオの GHG 排出量をネットゼロとすることへコミット
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>サステナビリティ委員会の設置</u> 取締役会の内部委員会として、社外取締役を委員長とするサステナビリティ委員会を新設 ● <u>役員報酬に関する記載の追加</u> 役員報酬体系における ESG 評価の取扱に関する説明を記載 ● <u>CSu0 (Chief Sustainability Officer) の設置</u> 気候変動問題を含むサステナビリティ全般の取組を統括・推進するグループ CSu0 を新設 ● <u>気候変動に関するガバナンス状況の開示</u> 取締役会を始めとした主要会議体におけるガバナンス状況や委員の出席状況を明記
戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>リスクに対する認識の見直し</u> 物理的リスクのシナリオ分析対象をグローバルへ拡大、移行リスクは 1.5°C シナリオに基づく分析へ見直し ● <u>機会に対する認識の見直し</u> リース・アセットマネジメント・コンサルティングの観点から想定される機会を整理・追加 ● <u>リスク・機会認識を踏まえた戦略的取組の整理</u> 気候変動に対する強靱性の確保・成長機会の獲得に向けた SMBC グループの取組を整理
リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>シナリオ分析 (物理的リスク) : 分析対象の拡充</u> AI 技術を活用し、グローバルにおける水災に伴う与信関係費用への影響を分析 ● <u>シナリオ分析 (移行リスク) : 分析手法の見直し</u> 1.5°C シナリオに基づく分析へ見直すとともに、炭素価格を考慮した上でグローバルにおける与信関係費用への影響を分析 ● <u>セクター・事業に対する方針の厳格化</u> 石炭火力発電所、パーム油農園開発、森林伐採向け方針を厳格化
指標・目標	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>自社 GHG 削減/サステナビリティに関するファイナンス実行額の目標引き上げ</u> 2030 年目標について、自社 GHG 削減はネットゼロ達成、ファイナンス実行額は 30 兆円に見直し ● <u>炭素関連資産比率を指標として追加</u> 三井住友銀行におけるエネルギー・電力セクターの貸出金比率を指標として設定 ● <u>投融资ポートフォリオ GHG 排出量を算定</u> 三井住友銀行における電力セクターの炭素強度について、現時点での算定結果を公表

以上